

経歴・活動歴

- 1978年 札幌市南区真駒内柏丘に生まれる。現在、北海道河西郡中札内村在住
- 2001年 「第51回西宮市展」(西宮市立市民ギャラリー/兵庫県西宮市)、西宮市展奨励賞
- 2002年 大阪芸術大学美術学部立体造形学科卒業後、和歌山県高野町森林組合に所属(～2004年)
- 2006年 紋別養護学校きたみ学園分校(現・北見支援学校)に勤務(～2011年)
- 2008年 「第83回道展」入選(札幌市民ギャラリー/札幌市)
- 2009年 個展「ひらかれている」(茶廊法邑/札幌市)
個展「ひらかれている」(FLOWMOTION/帯広市)
- 2011年 北海道中札内高等養護学校に転勤、中札内村の鉄工所跡をアトリエとして制作を行う
個展「N.P.blood21 vol.10 藤原千也展ひとりのひとにひとつづつの」(北網圏北見文化センター美術館/北見市)
- 2013年 「JR タワー アートプラネットグランプリ展」(プラニスホール/札幌市)
「道東アートファイル 2013 in the LIGHT/in the SHADOW」(北海道立帯広美術館/帯広市)
- 2014年 「帯広コンテンポラリーアート 2013-14 防風林アートプロジェクト 2013-14」(空港線沿い防風林及び雪原、帯広市民ギャラリー/帯広市)
- 2015年 「六花ファイル」(六花亭 六花文庫/札幌市)
- 2017年 「ひかりの抜け道」(大丸藤井セントラル/札幌市)
- 2018年 北海道教育大学大学院教育学研究科教育専攻-美術教育専修空間造形研究室修了
「藤原千也 オープンアトリエ」(藤原千也のアトリエ/中札内村)
- 2019年 「第38回帯広市民芸術祭 招待作家展「藤原千也展 一ふたたび生成のうちに」」(帯広市民ギャラリー/帯広市)
「ほこだてトリエンナーレ/藤原千也展 一光景一」(北海道木古内町 郷土資料館/木古内町)
「JR タワー アートボックス」(JR 札幌駅/札幌市)
「松本道子 × 藤原千也 ダンスと彫刻のコラボレーション」(藤原千也のアトリエ/中札内村)
- 2020年 第23回岡本太郎現代芸術賞特別賞
十勝文化団体協議会文化奨励賞
- 2021年 「札幌美術展 アフターダーク」(札幌芸術の森美術館/札幌市)
- 2022年 道銀芸術文化奨励賞
- 2023年 第4回本郷新記念札幌彫刻賞
- 2024年 中札内村文化奨励賞
第4回本郷新記念札幌彫刻賞受賞作品「太陽のふね」が札幌芸術の森美術館中庭に設置
個展「第4回本郷新記念札幌彫刻賞受賞記念 藤原千也展 生まれようとした時の光をみたい」(本郷新記念札幌彫刻美術館/札幌市)
第53回 札幌文化奨励賞

本郷新記念札幌彫刻賞

本郷新が全国各地に数多くの野外彫刻を設置した功績を記念するとともに、自分を越えて多くの若い彫刻家が育ってほしいという願いを受け継ぎ、50歳未満の彫刻家を対象として、多くの人の目に触れる場所に作品を設置する機会を提供する全国公募の賞です。第1回から第3回までは札幌中心部の「大通交流拠点地下広場」、第4回は札幌芸術の森美術館の中庭を指定し、そのスペースのための作品プランのなかから最も優れたものを選定し、約3年間設置しています。この賞は、1983年から2011年まで隔年で15回にわたり、全国に設置された最も優れた彫刻を賞してきた「本郷新賞」の後継の賞です。



第1回 2014年	第2回 2017年	第3回 2020年
凹みスタディ - 琴似川北12条西20丁目 谷口顕一郎	improvisation ~ うけとめるかたち 加藤宏子	ザブーン 高橋喜代史
設置場所: 大通交流拠点地下広場 設置期間: 2015年2月～2018年1月	設置場所: 大通交流拠点地下広場 設置期間: 2018年2月～2021年1月	設置場所: 大通交流拠点地下広場 設置期間: 2021年2月～2024年3月

第4回本郷新記念札幌彫刻賞 概要

選考委員長	酒井 忠康 (世田谷美術館館長)
選考委員	建畠 哲 (草間彌生美術館館長)、植松 奎二 (彫刻家)、阿部 典英 (美術家)、佐藤 友哉 (美術評論家、前札幌芸術の森美術館館長)、吉崎 元章 (本郷新記念札幌彫刻美術館館長)
作品募集	2023年 3月末～9月3日
選考会	2023年 9月27日 本郷新記念札幌彫刻美術館研修室にて (応募総数 18点のなかから選考)
授賞式	2023年 10月26日 札幌市役所本庁舎10階 市長会議室 (本郷新記念札幌彫刻賞 100万円、受賞記念展作品制作費 50万円を授与)
作品搬入・設置	2024年 5月29日～6月28日
作品展示	2024年 6月29日～2027年4月末(予定)
受賞記念展	2024年 10月 5日～2025年 1月26日 本郷新記念札幌彫刻美術館にて開催
主催	札幌市、本郷新記念札幌彫刻美術館(札幌市芸術文化財団)
協力	札幌芸術の森美術館(札幌市芸術文化財団)

第4回本郷新記念札幌彫刻賞受賞作品

藤原 千也 太陽のふね

Fujiwara Kazuya
Given the light



設置場所: 札幌市南区芸術の森2丁目75番地 <https://artpark.or.jp/>
アクセス: 公共交通機関 地下鉄南北線「真駒内」駅のバス2番のりばから
中央バス乗車。「芸術の森入口」下車(所要時間約15分、約15分間隔で運行)
※駐車場1車両1回につき普通車500円
問い合わせ: 本郷新記念札幌彫刻美術館 011-642-5709 (10:00～17:00、月曜休館)

撮影: 井上 浩二 (「太陽のふね」全写真)



藤原 千也 太陽のふね

2024年 木（トドマツ等）
高さ380.0×幅480.0×奥行1830.0（cm）
設置場所：札幌芸術の森美術館中庭、2024年6月～2027年4月（予定）

制作助成：公益財団法人朝日新聞文化財団、公益財団法人野村財団

制作協力：株式会社広慶（井野也寸志、大野達也）、帯広木材（高木）、木下林業株式会社（木下真利）、川林業株式会社（正木隼人）、大泉拓斗、古川由奈、野田優也、川村太陽、辻愛斗、鈴木愛里、黒田夢斗、田中良太、今野史拓、山下悠仁、大間健太、岡田文太、坪内駿、岸本笑奈、田中脩、田中世良、佐々木工、日比章裕、間宮なつき、Yuki Naganuma、上杉高雅、大野淳一、大野聡子、Kit_A、伊藤英拓ご家族、斎藤ヒロト、奥山桂子、島本健太ご家族、上ノ大作、河崎のかり、下山純子、清水むつみ、岩倉陽祐、砂金のかり、天野雅文、下田亜衣、Murata Yuki (Banana)、稲垣恵、河野紫香、藤田倫子、宮川正明、山際愛、広森一也、吉岡隆、Nobuyoshi Tanaka、藤森功子、阪村祐、北川たまみ、細目清明、鈴木芳美、名畑美由紀、名畑文草、菅原賢太、深谷優星、船越美紀、藤田倫子、星久美子、堀田晃、伊藤千織、下田亜衣（敬称略、順不同）

太陽と木の内と

この星の中心がまじわるとき

地中からさんさんと湧くこの光を たましいという

日々繰り返される本当の結びつきに入る。

そうしたらきっと、この気持ちも少しは かわれるだろうか。

もっと良い社会、自分になるはずだったと、ただ漠然と疲れてる。

戦争、環境破壊、崩れる倫理観、私も加担しているそれに、何もしないでいる。

手元の画面で何もかも出来た気になるが、外は葬儀屋さんが増えている。

くだらないニュースも、何かの違和感を胸を締め付け続ける。もうとっくに倒れているかも

しれない現代という名の巨大な樹木。それでも日々を生きなければならない私たちは、

何を信じて、何を見たら良いのだろうか。

太陽が見たい

巨大な樹木が目の前で倒れ、大部分は地中に埋まり、

空洞化した内部は闇に包まれています。ここに長さ数メートルに及ぶ光の舟が現れます。

一日の数時間～数十分間だけ、樹木（作品）上部に入った割れ目から太陽の光が差し込

み現れる光の舟は、闇の中に現れ、静かに移動しながら消えていきます。

透き通れ とうめいに身体を抜け、光として。

そうしたらきっと、巨億のたましいと邂逅できるかもしれない

藤原 千也

2025年3月3日